

令和7年度《学校経営計画》

名張市立蔵持小学校

学校長 山村 裕見子

1 学校教育目標

「しあわせ」の学校をつくる

- 身につけた「知識」と積み重ねた様々な経験から「知恵」を生み出し、主体的に行動できる子どもを育てる-

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	○子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と思う学校 ○児童も教職員も安心して学べる学校 ○保護者・地域に信頼される学校	
○児童・生徒像	し：しんけんに考えて行動できる子 あ：あいさつをじぶんからできる子 わ：わたしもあなたも大切にできる子 せ：せかいに目をむけて学べる子	じぶんから取り組める子 あした、したいことをみつけられる子 わかろうとどりよくして考えられる子 せきにんをもってやりぬける子
○教職員像	○子どもに対する愛情や責任感をもち、子どもたちに寄り添う ○学力・体力向上を実現するために、授業改善に努める教職員 ○保護者や地域住民の期待に応え、信頼される教職員	
○保護者・地域像	○学校と連携して子どもを育てる保護者 ○学校と連携することで、教育効果を高める地域	

3 学校の現状

(児童)

- ・友だちや先生の話をしっかり聞くことができる。
- ・基本的な生活ルールを守り、学習や係活動、清掃活動等に落ち着いてまじめに取り組む姿が見られる。
- ・学習でわかったことや身につけた知識・技能を活用することが得意な児童が多い。
- ・コロナ禍から数年経つが、人との関わりが多く持てなかった時期の影響がまだ見られる。自分の考えを自分のことばで積極的に伝えることに苦手さを感じる児童や、自信を持って表現できない児童もいる。

(教職員)

- ・全教職員で、子どもたちの豊かな学びと育ちに向けて取り組もうとする姿勢がある。
- ・チームで助け合い、協力して課題解決に当たる体制を持っている。

(保護者・地域)

- ・保護者も地域も学校の経営方針を理解し、地域を大切にする子どもを育てようと協力する意識が高い。
- ・学校生活支援ボランティアの支援体制や活動が充実している。

本年度の改善方策

○保護者、地域の協力のもと、意図的に地域の「ひと・もの・こと」に触れ、体験的な学習を設定し、興味・関心を高め、自らが課題を見つけて取り組む姿勢を育て、探求心の育成と学習意欲の向上に努める。

○年間を通じて授業改善に取り組み、協働的な学習を通して学ぶことの楽しさや達成感を持たせ、経験を積み重ねることにより主体的に学び、行動する力を養う。

○学級集団づくりを見直し、授業や行事、児童会活動や体験活動を通して子どもどうしのつながりと居場所づくりを進める。一人ひとりが活躍する場を設定し、達成感や成就感、自己有用感を育み、学校が子どもにとって楽しく意義のある場となるよう工夫し改善を図る。

○教科担任制等により子どもたちを多角的に理解し、多くの教職員の関わりできめ細やかな指導と支援を充実させる。また、学校運営協議会を活用し、保護者・地域の主体的な学校運営の参画を通して連携を深める。

○「チーム蔵小」として元気溢れる職員集団であり続けるためにコミュニケーションをとり働きやすさを感じる職場を目指す。休暇の取得率を上げ、業務負担の軽減、時間外労働の縮減を中心に働き方改革の推進に努める。

4 重点的な取組事項

番号	内 容	実 施 期 間				
		5	6	7	8	9
1	多くの経験を積み重ねることで主体的・協働的に課題を解決する力を養い、学習意欲の向上を目指す。	○	○	○	○	○
2	互いに認め合える集団づくりと居場所づくりを進める。	—	○	○	○	○
3	家庭・地域と連携し、信頼される地域とともにある学校づくりを進める。	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1	多くの経験を積み重ねることで主体的・協働的に課題を解決する力を養い、学習意欲の向上を目指す。
-------------------	--

A 今年度の成果目標

「授業がよくわかる」と感じている児童の割合…90%以上

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

①	地域の資源を活用し、様々な体験学習を通して興味・関心を持ってなかまと協力して行うなど、多くの生活体験や経験の積み重ねから発達段階に応じたキャリアを形成するとともに、主体的・協働的に課題を解決する力を養うことを通して、学習意欲の向上に努める。
②	ペア学習やグループ学習など対話的・協働的な学習により、子どもたちが「主体的に学ぶ喜び」を実感し、学力・体力の向上を実現できるよう授業改善に取り組む。
③	様々な活動を通して、自ら学び行動できる力や自分の考えを表現するための言語能力を育成するとともに、体験学習等を通して学習したことを次の行動に活かす力、「知識」を「知恵」に変え行動する力を育てる。

重点的な取組事項－2	互いに認め合える集団づくりと一人ひとりの子どもの居場所づくりを進める。
-------------------	-------------------------------------

A 今年度の成果目標

「学校へ行くのが楽しい」「相手のことを考えてなかよく生活している」と感じている児童の割合…90%以上

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

①	ESDを視野に入れた様々な体験活動や学習場面において「肯定的な振り返り」により子どもたちが相互に認め合い、教職員が「褒める・認める」場面を意図的に設定することで児童の満足感・自己有用感を高める。
②	どの子どもも安心して学校生活が送れるよう、特別支援教育の視点を大切にした教育を充実させるとともに、道徳観の熟成や人権意識の高揚を図り、互いを認め合える豊かな心と正しい行動を実践する力を育成する。
③	教室での観察やQ-U調査等を通じて子どもたちの思いや状況を把握し、教科担任制等の利点を生かした教職員間の多角的な視野から情報共有を密にして、子どもどうしがつながる活動や声かけの場面を工夫する。

重点的な取組事項－3	家庭・地域と連携し、信頼される地域とともにある学校づくりを進める。
-------------------	-----------------------------------

A 今年度の成果目標

「学校は、保護者・地域との連携を大切にしている」と感じている保護者の割合…90%以上

B 目標実現に向けた取組

具体的な方策

①	学校運営協議会での熟議を充実させ、授業参観・懇談等から育ってほしいこどもの姿や成長した姿、子どもの願いを共有し、保護者・地域と連携・協働した取組を行う。
②	「学校・地域協働活動年間計画」の実施を推進することで、学校生活支援ボランティアや保護者・地域の方々の参画を図り、継続的に学校・家庭・地域が協働して子どもを育てる体制を定着させる。
③	子どもたちの学習活動や生活状況等について、ホームページ・学校だよりや学年通信、個別懇談会、地域の会議等で保護者や地域に情報発信・情報提供を行う。

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標

成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	20時間以下(30時間以下の範囲)
	年360時間を超える時間外労働者数	0人 (変更不可)
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人 (変更不可)
具体的な方策	・タイムカードの活用により教職員が自らの在校等時間を把握し、業務を計画的に遂行することにより、勤務時間をセルフコントロールできるようにする。 ・会議の回数や内容を精選し、60分以内で終わるようにする。計画的な運営から仕事の効率化を図る。	

休暇取得促進の目標

成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	20日以上(各学校で設定)
具体的な方策	・休暇取得に対する個々の意識を高め、取得しやすい職場の雰囲気づくり、体制づくりを進めるための働きかけを行う。 ・放課後の会議がない日など、時間単位で休暇が取得できるよう声かけを進める。 ・長期休業中を利用した休暇のまとめ取りを推進し、夏季休暇を全員が取得する。	

学校独自の取組

活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	60%以上
	予定通り休養日を実施できた部活動の割合	●%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	70%以上
	放課後に開催して90分以内に終了した会議の割合	100%
具体的な方策	・定時退校日を月に1～2回設定し、勤務時間内に対応の見通しがつくように計画的に仕事を進める。 ・授業時数を確保した上での短縮日課等の開始時期を検討する。 ・会議資料の事前配付やICTを活用したペーパーレス化を推進し、業務削減と負担の軽減を図る。 ・タブレットやホワイトボードを有効に活用し、朝の打合せを簡略化する。	

7 コンプライアンスの推進に向けた取組

具体的な方策	教育公務員としての自覚と規範意識を育成するために、年間を通じてコンプライアンス研修を行い、日々の教職員同士の対話を大切にして教職員の心身の健康を保つ。必要に応じて面談を行い、一人ひとりがストレスを抱え込まないように気をつけ、OJTを実践して教育課題への壁を協働して乗り越えられるような職場の風潮を創り上げる。
--------	---